



見て楽しむだけじゃない、 雑草ボタニカルガーデンへ ようこそ!

校庭には、いろいろな植物が生えていますが、植えた植物以外は、すべて雑草と呼ばれてしまい、じゃま者あつかいです。でも雑草もよく観察すれば、すてきな姿をしています。校庭に生える雑草を採集・さいばいして、雑草ボタニカルガーデン（植物園）を作ってみましょう。雑草だって、種名やとくちょうなどを調べて、解説文などといっしょにしょうかいすれば、みりよくが伝わるにぎやかな展示ができあがります。

用意するもの



スコップ

植木ばち

植木ばち台

ワイヤーラティス

*いろいろなタイプのもので、100円ショップで手に入る。 *植物や解説文を、立体的に展示するのに便利。

+ 校庭に生える雑草



トキワハゼ

ジシバリ

ヒメジョオン

カラスノエンドウ

ハハコグサ



クズ

オオイヌノフグリ

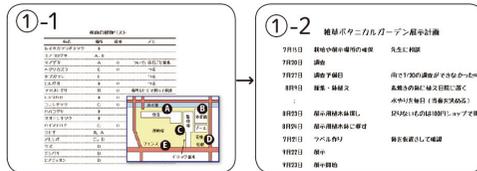
オオパコ

シロツメクサ

しばしばやっかいものにされる雑草も、よく見るときれいな花をつけています。それを集めて鉢に植えて、植物園を作ってみよう。植木鉢を選んだり、立体的に配置したり、ラベルを工夫したりして、雑草の魅力を伝えてみましょう。(小川)

雑草ボタニカルガーデンの作り方

雑草ボタニカルガーデン



校庭の雑草リスト。

展示スケジュール。



採集した植木ばちに植える。



理科室の水道のまわりなど。



水がもれても安心な場所では、すのこなどをいして足場を作る。



仮置きした状態。



防水スプレー



理科室の水道のまわりを利用した、雑草ボタニカルガーデン。

見どころや目玉をしようかいる

展示には、見どころや目玉をしようかいると、みんなが注目してくれます。たとえば、毎日変えるパネルを作り、その日にさいた花のしょうかいや、校庭で見つかった希少な植物を目玉にするなど、展示に変化をつけることで、何度でも見たくなる工夫をしましょう。

①校庭に生える雑草を調べて、どんな植物を展示するか、計画を立てます。

②植木ばちに移植して育てます。

③展示スペースは、日光が入り、水にぬれてもさしつかえない場所を選びます。

④展示スペースを作る際に、必要に応じて、防水用にビニールシートをしき、水が下にもれないように工夫します。

⑤展示イメージを決めるために、植木ばちや台、ワイヤーラティスなどを仮置きします。

⑥展示する植物が決まったら、種名や解説文などを書いたラベルを作ります。大きなラベルは、カード立てやフォトフレームに入れ、小さなものやみだしのラベルは、手ばりラミネートフィルムなどでラミネートして、適当な大きさに切ります。ラベルに防水スプレーをかけておくと、長持ちします。

⑦きれいに配置したら、雑草ボタニカルガーデンの完成です。植木ばちがたおれると危険なので、ぐらつくものがなければ必ず確認します。展示中は、水やりや植物の入れかえなど、こまめに管理することが大切です。



希少な植物を知ってもらうことで、毎日変えられるパネル。

絶滅危惧種アゼオトギリの展示。



希少な植物を知ってもらうことで、環境保全などを意識してもらう。

◆自然を調べるプロのスゴ技にチャレンジ！ 特別配信版（期間限定）／少年写真新聞社『100円グッズと身近な道具でできる！博物館のプロのスゴ技で自然を調べよう』④展示と発表 小川誠・奥山清市・矢野真志／共著（西日本自然誌系博物館ネットワーク）p.32-33より ※このシートは、非商業的な利用に限り使用を許諾します。 ©小川誠・奥山清市・矢野真志